

ガオロ氏より「コビクラ谷へ行きませんか」とのお誘いがあったのが 9/20 の水曜で、ええ行きましょうお願いしますと返事したものの、ご希望の日曜は娘①バレーボールのスポーツ小での家内の当番日で私には娘②の子守が入っていた。ので、一旦断ったものの「では土曜では？」と再度お誘い頂いて、今度は仕事を休むこととして同行する運びとなった。

で、件のコビクラ谷、聞き覚えが有るような無いようなで検索を掛ければ何としたことか！ ヤマレコ上で心安くメッセージを下さる maasuke1 さんが足繁く通われている谷として上位にヒットしたのだった。う〜ん、ここ近日別件でもこの手の偶然続きでこれまた何かの好意的流れの中に居ることを感じる。

コビクラ谷は地図で見ても蕎麦粒山(ソムギヤマ)に西面から極く自然に突き上げており、今を遡ること 15 年前に実践の南面大谷川みやま谷からカゴカケ谷より余程理に適った谷筋に見えた。みやま谷も源頭部に平流部がありまたそこから流下する部分にも何かが潜むに違いあるまいと興味を引かれて出掛けたものだったが、如何せん谷が小さい。アトラクションがコンパクトに纏まっていると好意的に取ることもできたが、やはり私が求めるところのものは無かった。yoneyama 氏の同僚で参加された東大ワングル出の yanagiida 氏も、今や藪漕ぎと無縁の人生に転じてしまったようだ。

書架の資料を調べるや、この谷は日本登山大系にも掲載されており、そこには「小飛倉谷」とあり淡白な紹介文が有る。あっ、御大日比野氏の百山百溪読まずに出掛けてしまった！ スミマセン。

朝 4 時半にお迎えがあつて静かに家を出た。荒れた町道にてホハレ峠手前で車を捨て発ったのが 6 時半、空はドンヨリ曇天だが回復基調にあることを知っているのも石仏に手を合わせてから安気に峠からの杉道を下っていった。お陰様で頬は腫らさずに済んだ。よく踏まれた道を下ること一時間弱で砂防堰堤上のコビクラ谷出合に到着し、林檎を齧って入溪した。出合は暗く如何にも冴えない感じだが、進むにつれ自然林に包まれた明るい雰囲気になった。集材用のワイヤーも散見され、王子製紙のパルプ用材として大規模伐採を受けたはずなので二次林に違いあるまいが、残し木で一本立派な枡の大木を見た(標高 700m 辺りの左岸)。地図上で記載のある名残の道は廃道化しており、その道を活用して造られたであろう二段堰堤を右手から越えてじきに現れたのが五万図にも記載ある滝だった。爽やかに晴れた新緑の頃合いに見上げたらさぞや印象深い出会いだったことと思う。今回のこの優美滝 15m との出会いは些か寒いものであったが、日比野氏も賞賛されていることと思う。滝上で生息調査の後、小滝を連ねて小気味よく高度を上げる沢に沿って山頂を目指す。

今回もドンピシャ狙いでいくには、最後の詰めを右寄りに意識するのが勘所とみて、源頭部を右に採った。奥美濃らしい藪を漕いで躍り上がった山頂は、三角点わずか 15m 右に行き過ぎたものの、これはドンピシャといって差し支えなかろう。いやはやガオロ氏の読図は流石でした。晴れて蒸す山頂からは、奥美濃の地味な山々が見渡せた。

気の強い羽蟻に攻撃され山頂から追(ボ)い出された我々が採った西南西の尾根筋は登山道とは名ばかり、笹の被った歩き難さだったが、近く発刊予定のガイド本に執筆依頼されて昨年歩いているガオロ氏は平然とズンズンムンムン前を歩いて行く。菅原新道を離れて地図上のホハレ峠を目指す西尾根こそが本山行の核心だった。最初こそ刈分けがあったものの、それも尽きると尾根型と傾斜と方位とを根拠に視界のない藪漕ぎを続ける羽目となる。支尾根に引っ張られて迷い込んだ記録も読んでいたので十分に警戒して少ない根拠を拾い上げてゆく。

以前、御嶽の上俵山からの笹尾根を同行氏が携行したスマートフォンの GPS 機能を活用して下降したことがあったが、私の登山人生に於いてあれは大いなる汚点であった。折角の廻行を台無しにしてしまった苦い思いが未だ残る。アレはイタダケナイ、GPS 機能。

大滝登りのプアプロクライミングも、ゴルゴルゴルジュ突破スイムも、冷や冷やの泥壁草付高捲も沢登りの華ではあるけれど、登山の中で私にとり最も登山らしい行為と強く実感するのが先の読めない読図をしている時にこそある。かつて同行のナルっさんも一見華麗なクライミングに目を向けられがちだけれど成瀬氏の美点は野性味溢れる強烈なまでの登路への嗅覚にあったと思う。高捲きに始まり獣道や地元住民が微かに残した痕跡を決して見逃さない、それを「鼻で探る(登る?)」と表現していたと記憶する。

目の前をゴソゴソと藪突進するガオロ氏も、華々しい山スキー滑降や錫杖クライミングにばかり目が行きがちだけれど、何より不安を見せず自信を持って西進するそのお姿に真の登山者としての力量を見る思いがした。春の御嶽は摩利支天山北西尾根をスキー滑降した際も、迷うことなくキビキビと判断を下してゆき、明るい内に戻れたのは氏のお陰だった。何事もなく下山できた際には綻びとして露見しない地図読みだけれど、道迷い経験をしてから自らの力量不足を嘆くことが無いよう自身留意したい。無事に地図上のホハレ峠に着いたものの、私の読図リードだったら到着が二〇分は遅かったことと思う。

揖斐川町「さかの上」でオバアスペシャル盛もり天ぷらそばを腹に収め、自宅まで送って頂き洗濯して入浴後に一本飲んだら寝不足も相俟って 12 時間も寝倒してしまった。

ガオロさん、また"おきゃんな"沢でお願いします。

【タイム】岐阜(430)駐車(630)「真の」ホハレ峠(650)コビクラ谷出合(740-55)優美滝下(830)蕎麦粒山(1200-15)菅原新道分岐(1320)地図上のホハレ峠(1430)駐車地点(1440)